

授業科目	子どもの保健 (B クラス)				単位	2		
履 修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	CH11204J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1			
担当教員	藤田 稔子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>実務家教員として、病気や障がいを持つ子ども達と関わり、親子に対して保健指導、育児支援をおこなってきた経験を活かし、乳幼児の身体の構造と機能及びその発達と、疾患について解説をしていきます。また、それらの知識を活かして、保育現場で必要な疾病予防や対処方法も説明し、根拠に基づく実技演習も併用しながら習得できるように授業を構成しています。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義が理解できる 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	0	0	0	10	30	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	60				10		70	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)						30	30	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
保育現場における保健活動が展開できる基礎的知識を有し、必要な養護技術を現場で使えるレベルまで習得できている				保育現場における保健活動が展開できる知識は最小限有し、養護技術の手順も理解できている				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	テーマ:子どもの心身の健康と保健の意義 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的を前提に、現在社会における子どもの健康状況や			オリエンテーション 講義		予習 1:このシラバスを読むこと		60

	課題、地域における保健活動(児童虐待防止含む)について解説する。その中から、子どもにとっての健康の概念と健康指標を明確化させます		予習 2:教科書 12~31 ページを読むこと 復習:ノート整理	
2	テーマ:子どもの身体的発育・発達と保健 妊娠期からの身体発育及び運動機能の発達を解説し、子どもたちの生理機能がどのように発達していくかを説明します	講義	予習:教科書 32~35、39~41 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
3	テーマ:子どもの心身の健康状態とその把握 子どもの健康状態を把握するために必要な知識を解説し、正しい体温測定方法や子どもの心身の健康状態の見方をデモンストレーションします	講義 実技演習 (バイタルサイン測定)	予習:教科書 42~51 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
4	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 1 概論・先天性疾患 子どもの病気の特徴を捉え、病気の症状とそのケアについて解説する。また、先天異常について述べ、生まれながらに障害や病気を持って生活をする子どもたちへの関わりを説明します	講義	予習:教科書 80~83 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
5	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 2 呼吸器・循環器 呼吸器と循環器の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる呼吸器疾患と循環器疾患について解説する	講義	予習:教科書 44~45、50~51,84~87 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
6	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 3 血液・悪性腫瘍 血液の種類とその役割を説明した後、子どもによく見られる血液疾患及び悪性腫瘍について解説する	講義	予習:教科書 50、88~89、92~93 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
7	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 4 白血病 白血病に関する動画を見て、白血病及び白血病と闘っている子どもの理解と保育者としての役割を考察する。	講義	予習:白血病について調べておく 復習:課題プリントを仕上げる	60
8	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 5 消化器・泌尿器・生殖器 消化器の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる消化器疾患について解説する 泌尿器と生殖器の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる泌尿器疾患と生殖器疾患について解説する。	講義	予習:教科書 52~53、90~91,96~97 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
9	テーマ:関連する養護技術 1 調乳と授乳 母乳、粉ミルクについて解説した後、調乳や授乳等新生児から乳児に必要な養護技術のデモンストレーションをおこなった後、練習をします	実技演習 (調乳・授乳)	予習:事前に配布するプリントを仕上げてくる 復習:ノート整理	60
10	テーマ:関連する養護技術 2 おむつ交換 おむつ交換のデモンストレーションをおこなった後、練習をします	実技演習 (おむつ交換)	予習:事前に配布するプリントを仕上げてくる 復習:ノート整理	60
11	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 6 骨・感覚器・歯科衛生 骨や筋肉、感覚器の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる整形外科的疾患と感覚器に関連する疾患について解説する。歯の構造及び齲蝕について解説します。	講義	予習:教科書 68~73、74~79、98~107 ページを読むこと 復習:ノート整理	60

12	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 7 内分泌・アレルギー ホルモンと生活リズムについて説明した後、子どもによく見られる内分泌疾患について解説する。また、子どもによく見られるアレルギー疾患を解説し日常生活管理の方法を説明する	講義	予習:教科書 54～55、108～109 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
13	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 8-1 感染症と予防接種 その1 免疫機能について解説した後、子どもによく見られる感染症を説明します。また、予防接種について解説します	講義	予習:教科書 110～112、135～140 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
14	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 8-2 感染症と予防接種 その2 免疫機能について解説した後、子どもによく見られる感染症を説明します。また、予防接種について解説します	講義	予習:教科書 110～112、135～140 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
15	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 9 脳神経系・精神領域 脳神経の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる疾患について解説し、特に痙攣等発作に対する予防と対応方法を説明する	講義	予習:教科書 36～38、56～67 ページを読むこと 復習:ノート整理	60
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	1 年前期で学修した「保育の心理学」「子どもと健康」を踏まえた科目です。今までの学修した内容を復習しておいてください。			
テキスト	子どもの保健と安全 第3版、高内正子(編著)、教育情報出版、2021、2,270 円+税			

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	講義は基本的にパワーポイントを用いておこない、教科書にない資料は別途プリントで配布します 参考にして欲しい雑誌:チャイルドヘルス
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	講義は、スライドを丸写しするのではなく、必ず自分の言葉でノートづくりをしてください。ノートづくりをする中で、関心のある事項についてはぜひ調べ学習にも取り組んでください。 最初に子どもの体調不良に気付くのは医師や看護師ではありません。子ども達の最も身近にいる保育士や幼稚園教諭が気付いて対応しなければ大変なことになります。そのためにも本科目の知識は大切です。内容は難解で量も膨大ですが、頑張って学習してください。授業のスピードも必然的に速くなります。質問や勉強会はいつでも受け付け、開催しますので、分からないことを置き去りにしないようにしてください。
達成度評価に関するコメント	(1)試験: 定期試験期間中に 15 回の内容満遍なく出題する「持ち込み不可」の定期試験を実施します (2)レポート外の提出物: 実技演習後の振り返りシートを評価します (3)その他: 講義の内容をノートにまとめてもらいます。そのノートを評価していきます。ノートは、スライドの丸写しではなく、自分の言葉で分かりやすく書かれているか、調べ学習がされているか、等を重点的に見ていきます。また、ノート以外にも、授業中の取り組み度 (good job 印鑑) や自己評価も評価の参考とします